大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

（令和7年5月分【埋立中共通調査②】）

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省　近畿地方整備局

大阪港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目　　次

Ⅰ　事後調査の概要

１．調査概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ- 1

２．工事の実施状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ- 2

３．調査結果の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅰ- 3

Ⅱ　事後調査結果

１．陸域生態系（鳥類）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅱ- 1

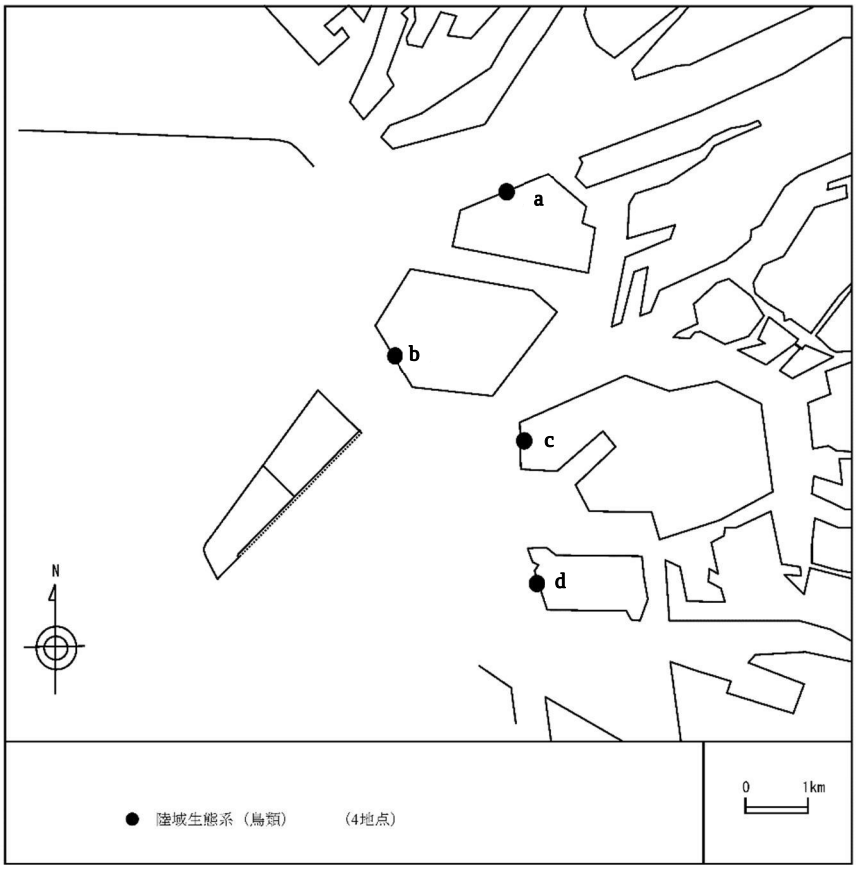
Ⅰ　事後調査の概要

１．調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく令和７年５月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表－１に、調査地点の位置は図－１に示すとおりである。

表－１　事後調査の概要（埋立地周辺における調査　陸域生態系(鳥類)）

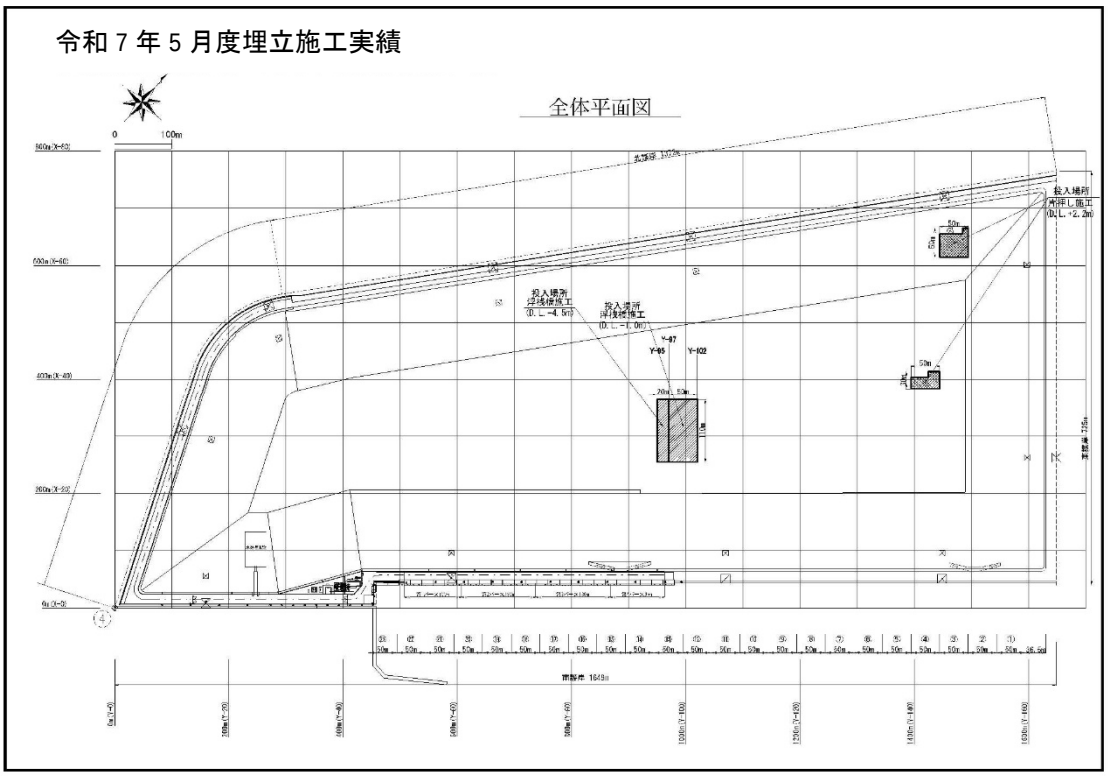
調査項目	調査地点･範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	４点 【a，b，c，d】	5月12日､13日	４回／年(3年毎に実施) (5月､6月､8月､2月)



図－１　陸域生態系（鳥類）の調査地点

２．工事の実施状況

令和７年５月の工事の実施状況は、図－２に示すとおりである。



埋立量(㎥)	進捗率(%)
8,196,818.4	58.7

埋立容量(計画量)　：　13,975,000 ㎥

図－２　工事の実施状況　（大阪沖処分場平面図）

３．調査結果の概要

埋立地周辺における調査

（１）陸域生態系（鳥類）［陸域生態系（鳥類）様式第１～３号（埋立地関連）］

鳥類の出現種類数は、4 地点合計で 8 目 18 科 26 種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点 d が最も多く 67 羽であり、次いで調査地点 c の 43 羽、調査地点 a の 31 羽、調査地点 b の 23 羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点 c が最も多く 18 種であり、次いで調査地点 a の 12 種、調査地点 b の 8 種、調査地点 d の 7 種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点 d における主要な出現種は、コアジサシ（チドリ目カモメ科）、カルガモ（カモ目カモ科）、スズメ（スズメ目スズメ科）、アジサシ（チドリ目カモメ科）、ハシブトガラス（スズメ目カラス科）であった。

事業実施前（平成 10 年 5 月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）に実施した 5 月の結果は、4 地点合計で 10 目 21 科 37 種であり、本年度は事業実施前と比べて種数がやや少なくなっていた。

事業実施前調査結果を表−２に示す。

陸域生態系（鳥類）表−２　事業実施前調査結果

区　分		平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月
出現状況	目	8	8	10	9
	科	18	17	21	19
	種	35	37	37	26
主な出現種（個体数、組成比率）		ウミネコ　(35.4%)	ヒドリガモ　(18.1%)	トウネン　(32.2%)	ムクドリ　(42.6%)
		トウネン　(27.2%)	ホシハジロ　(11.0%)	コアジサシ　(8.4%)	スズメ　(12.3%)
		カワウ　(8.8%)	キンクロハジロ　(7.6%)	シロチドリ　(7.3%)	ツバメ　(12.3%)
		カルガモ　(7.1%)	カワウ　(6.1%)	アジサシ　(4.5%)	コアジサシ　(9.6%)
		スズメ　(4.5%)	スズメ　(5.0%)	ハシブトガラス　(4.3%)	ドバト　(6.5%)

調査地点		a	b	c	d	合計
平成 9年 8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年 2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

Ⅱ　事後調査結果

陸域生態系（鳥類）様式第１号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）［令和７年５月分］

調査日：令和７年５月12日、13日

No.	目名	科名	種名	渡り区分	地点別出現個体数				
					a	b	c	d	計
1	カモ目	カモ科	カルガモ	留鳥			3	3	6
2	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥			1		1
3	ハト目	ハト科	キジバト	留鳥			3		3
4	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥	2	2		1	5
5	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥			2		2
6	ツル目	クイナ科	オオバン	留鳥			5		5
7	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥		1			1
8			シロチドリ	留鳥			2		2
9		シギ科	チュウシャクシギ	旅鳥	2		2		4
10			キアシシギ	旅鳥	2		5		7
11			イソシギ	留鳥			1		1
12			キョウジョシギ	旅鳥	6				6
13			トウネン	旅鳥	1		1		2
14		カモメ科	ユリカモメ	冬鳥（一部留鳥）		3	1		4
15			コアジサシ	夏鳥	6	10		55	71
16			アジサシ	旅鳥		2		2	4
17	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	留鳥	1				1
18			ハシブトガラス	留鳥	1		4	2	7
19		シジュウカラ科	シジュウカラ	留鳥			1		1
20		ツバメ科	ツバメ	夏鳥	1	1	3		5
21		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	4		2		6
22		ムシクイ科	センダイムシクイ	夏鳥			1		1
23		セッカ科	セッカ	留鳥		2		1	3
24		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥	2		3		5
25		スズメ科	スズメ	留鳥	3		3	3	9
26		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥		2			2
合計（8目18科26種）				目数	3	3	7	4	8
				科数	8	6	15	6	18
				種類数	12	8	18	7	26
				個体数	31	23	43	67	164

注）1.分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト－令和６年度生物リスト」（国土交通省　2024）に従った。

2.渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（(財) 日本野鳥の会大阪支部、2001）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第２号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）［令和７年５月分］

調査日：令和７年５月 12 日、13 日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	3	3	7	4	8
	科	8	6	15	6	18
	種	12	8	18	7	26
出現個体数		31	23	43	67	164
主な出現種（個体数、組成比率）		キョウジョシギ（6 羽、19.4%） コアジサシ（6 羽、19.4%） ヒヨドリ（4 羽、12.9%） スズメ（3 羽、9.7%） カワウ（2 羽、6.5%） チュウシャクシギ（2 羽、6.5%） キアシシギ（2 羽、6.5%） ムクドリ（2 羽、6.5%）	コアジサシ（10 羽、43.5%） ユリカモメ（3 羽、13%） カワウ（2 羽、8.7%） アジサシ（2 羽、8.7%） セッカ（2 羽、8.7%） ハクセキレイ（2 羽、8.7%）	オオバン（5 羽、11.6%） キアシシギ（5 羽、11.6%） ハシブトガラス（4 羽、9.3%） カルガモ（3 羽、7.0%） キジバト（3 羽、7.0%） ツバメ（3 羽、7.0%） ムクドリ（3 羽、7.0%） スズメ（3 羽、7.0%）	コアジサシ（55 羽、82.1%） カルガモ（3 羽、4.5%） スズメ（3 羽、4.5%） アジサシ（2 羽、3.0%） ハシブトガラス（2 羽、3.0%）	コアジサシ（71 羽、43.3%） スズメ（9 羽、5.5%） キアシシギ（7 羽、4.3%） ハシブトガラス（7 羽、4.3%） カルガモ（6 羽、3.7%） キョウジョシギ（6 羽、3.7%） ヒヨドリ（6 羽、3.7%）

注）表中の主な出現種は、地点別の優占種上位５種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第３号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）［令和７年５月分］

調査日：令和７年５月 12 日、13 日

調査地点	a			調査地点	b		
順位	科名	種数	優占率（個体数%）	順位	科名	種数	優占率（個体数%）
1	シギ科	4	35.5%	1	カモメ科	3	65.2%
2	カモメ科	1	19.4%	2	ウ科	1	8.7%
3	ヒヨドリ科	1	12.9%	2	セッカ科	1	8.7%
4	スズメ科	1	9.7%	2	セキレイ科	1	8.7%
5	ウ科	1	6.5%	5	チドリ科	1	4.3%
5	カラス科	2	6.5%	5	ツバメ科	1	4.3%
5	ムクドリ科	1	6.5%				
8	ツバメ科	1	3.2%				

調査地点	c			調査地点	d		
順位	科名	種数	優占率（個体数%）	順位	科名	種数	優占率（個体数%）
1	シギ科	4	20.9%	1	カモメ科	2	85.1%
2	クイナ科	1	11.6%	2	カモ科	1	4.5%
3	カラス科	1	9.3%	2	スズメ科	1	4.5%
4	カモ科	1	7.0%	4	カラス科	1	3.0%
4	ハト科	1	7.0%	5	ウ科	1	1.5%
4	ツバメ科	1	7.0%	5	セッカ科	1	1.5%
4	ムクドリ科	1	7.0%				
4	スズメ科	1	7.0%				
9	サギ科	1	4.7%				
9	チドリ科	1	4.7%				
9	ヒヨドリ科	1	4.7%				
12	カイツブリ科	1	2.3%				
12	カモメ科	1	2.3%				
12	シジュウカラ科	1	2.3%				
12	ムシクイ科	1	2.3%				

注）優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は 100.0%にならないことがある。